



2016.9.30

山梨県子ども読書支援センター

本誌は、県民の皆様には山梨県子ども読書支援センターのことをより深く知っていただくため、

当センターの事業や活動内容について情報発信するものです。

## >>第2回子どもの読書活動推進スキルアップ講座を開催しました。



▲講座の様子

6月30日(木)に『「おはなし名画」ができるまで—子どもに美術の感動を一』と題して、博雅堂出版代表取締役の西村和子氏を講師に講座を実施しました。図書館司書や学校司書等、子どもの読書に関心を持つ43名の方の参加がありました。

『おはなし名画』シリーズは、西村氏が、子どもの頃に家で見ていた画集に載っていた絵の実物と、フィレンツェで再会した感動が、制作のきっかけとなったということです。

本を出版するにあたっては、できるだけ本物に近く、質の高い絵画を子どもたちに提供したいという思いから、印刷する色の表現技術を研究したり、本より小さい絵画は原寸大で掲載できるよう、本のサイズを

大型版にしたそうです。また、絵に添える文章についても、子どもが理解できて楽しめるようにする等の工夫をされているとのことでした。美術の本を通して、子どもたちに絵の楽しさや創作の喜びを伝えたいという思いを語られ、画家や絵に対する偏見を持たないことが、人に対する偏見を持たない、ということにもつながるのではないかという、大変示唆に富んだご発言もありました。

さらに、子どもに美術の本を手渡す際には、まず、大人がその絵の魅力を感じた上で子どもに伝えることが大切であり、本はいつも子どもの手の届くところに置き、興味を示すまで待つことも必要ではないかとのお話がありました。

出版者の立場から、制作の裏話、読者の反応や活用の方法などもお話いただき、美術の本との関わり方を改めて考える機会となりました。

参加者からは、「本の制作過程がわかりとても興味深かった」「講座を参考に、美術の本に親しむ入り口として子どもたちに紹介したい」等の感想が寄せられました。

## >>学校支援セットに新しいセットが増えました！

調べ学習や朝の読書用の図書として活用され、ご好評をいただいている学校支援セットに、新しいセットが増えました。朝の読書推進セットの小学校及び中学校・高校向けがそれぞれ1セットずつ増え、「セットA」「セットB」の2種類になりました。また新しく、県内公共図書館などの司書によって選ばれた、楽しく読める本・子どもの成長に有益な本をまとめた「こどもにすすめたい本2016セット」を学年ごとに作成しました。

読書活動の活性化や学校図書館の選書の参考など、幅広くご活用ください。申し込み方法はホームページをご覧ください。

[https://www.lib.pref.yamanashi.jp/kodomo\\_shien/shien\\_gakkou2.html](https://www.lib.pref.yamanashi.jp/kodomo_shien/shien_gakkou2.html)

調べ学習、朝の読書で使ってみませんか？  
テーマ別にセット貸出します！

### 学校支援セット 貸出サービス

セットの種類と内容

セットの内容(書名リスト)は、子ども読書支援センターのホームページでご確認ください。

小学校向け	中学校・高校向け
<b>【基本セット】</b> ① 山梨県 ② 戦争と平和 ③ 地理(日本) ④ 地理(世界) ⑤ 障害の理解 ⑥ 障がい理解 ⑦ 生と死 ⑧ 防災・防災 ⑨ 年表 ⑩ 科学技術	<b>【基本セット】</b> ① 山梨県 ② 障害の理解 ③ 生と死 ④ 防災 ⑤ 科学技術
<b>【朝の読書推進セットA】</b> ① 1・2年生向け ② 3・4年生向け ③ 5・6年生向け	<b>【朝の読書推進セットA】</b> ① 中学校・高校向け ② 小学校・高校向け
<b>【朝の読書推進セットB】</b> ① 1・2年生向け ② 3・4年生向け ③ 5・6年生向け	<b>【朝の読書推進セットB】</b> ① 幼児・小学校低学年 ② 小学校中学年 ③ 小学校高学年 ④ 中学生・高校生

※朝の読書推進セットA・Bは、朝の読書推進セットA・Bの冊子と合わせて貸出します。

## >>子どもの読書指導者養成講座（第1回）を開催しました。

子どもの読書活動を推進するにあたり、専門的助言や技術的な指導を行う人材を育成するため、専門理論と実践力を学ぶ講座を開講しています。

平成25年度から27年度は、「児童青少年サービス講座中級編」として、各年度で全体テーマを設けて実施しました。

今年度からは「子どもの読書指導者養成講座」とし、児童・青少年サービスを担当して3年以上、または、学校図書館等に勤務して3年以上の方を対象に、年4回の連続講座を実施します。

第1回を8月25日（木）に開催し、講座の開始に先立ち、開講式も行いました。講座は「図書館を魅せるには」と題して、図書館コミュニケーションデザイナーの押根良樹氏にご講義いただきました。「司書は知的で良い仕事であり、多くの仕事をしているのに、それをうまくPRできていない。また、図書館で何ができるかが、利用案内やカウンターの後ろなどにも書かれておらず、図書館の魅力が伝え切れていない。カウンターには不要な物、古い飾りなどは置かず、知的に美しく見えるようにし、司書の専門性をアピールすることが重要。」とのことでした。サインや分類表示、飾りなども必要がなく、本の場所を聞かれたときに、笑顔で子どもたちを案内できること、言葉だけでも即座に書架の場所を説明できることが司書の技術とお話でした。また、子どもたちは忙しいので、一人でも二人でもいいから来てもらえるように考え、展示なども工夫するとよいとアドバイスをいただきました。

後半では、受講者が事前に提出した利用案内や図書館だより等の印刷物や、それぞれの図書館の画像をスクリーンに写し、一人一人にコメントをいただきました。印刷物を作る際の注意点やポイント、また、各図書館の悩みに対するアドバイスなどをいただきました。

受講者からは、「ウィットに富んだお話の中に、温かくも的確なアドバイスがあった」「他の受講者の印刷物や図書館の様子を見ることができ、勉強になった」等の感想が寄せられ、日頃のサービスについて振り返る良い機会となったようです。



▲講座の様子

## >>平成28年度 職場体験・インターンシップ報告



▲生徒にPOPを書いてもらいました。

平成28年度の中学生職場体験・高校生インターンシップの受入を7月に行いました。4中学校8名、3高等学校7名がそれぞれ1日～3日間、山梨県立図書館の仕事を体験しました。最初のオリエンテーションで図書館について説明を受けている時は、皆一様に緊張しており、館内見学では書庫の広さ、資料の多さに感動します。その後、業務端末の使い方・カウンター体験・本の配架・相互貸借手続きなど、さまざまな仕事を経験しました。まとめでは「図書館は窓口だけでなく、裏側でたくさんの職員がいろいろな仕事をしていて、思っていたより体力を使う仕事だった」という感想が多く聞かれました。

山梨県立図書館では平成29年度も職場体験・インターンシップの受入を行う予定です。平成29年4月に学校を通して申し込みを受け付けますので、興味のある中学生、高校生は検討してみてください。